View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Hiroshima University Institutional Repository

広島大学　学部・附属学校共同研究機構研究紀要
〈第39号　2011．3〉

新学習指導要領に基づく授業実践

―他者の言葉とのかかわり合いをとおして，言葉の世界をひらく国語科の学習―

山元　隆春　　佐々木　勇　　田中　宏幸　　杉川　千草
加藤　秀雄　　八澤　　聡　　實谷　富美

１．はじめに

本校では，これまでに小中一貫教育における国語科の総合単元の開発をめざし，カリキュラムや教材作り，指導法の改善などに取り組んできた。

昨年度までの研究では，実生活に生きて働く国語科の能力を調和的に育て，言語活動を活発にしていく中で国語科の目標を豊かに実現できるようにするという新学習指導要領の主旨を踏まえながら授業実践に取り組んできた。そして，学習者どうしが言葉による新たな関係を築いていくことや教室外の新たな他者との出会いなど，言葉をとおしたコミュニケーションを扱いながら協同的な学びをつくり出していく過程で見られる言語活動を重視しながら学習を進めてきている。

そこで本年度は，新学習指導要領の実施に基づいて言語活動の充実を意識し，国語科の学習の中に意図的，計画的に言葉を通したかかわり合いの場を設定した。このことによって創造的な問題解決の過程を踏まえながら，思考力，判断力を育むとともに，表現力を磨き合いながら新たな認識を広げて「言葉の世界をひらく」国語科の学習について探っていくこととした。

２．研究の構想

（１）研究の目的

本研究は，学習者が自分のまわりの他者と出会いかかわり合うことをとおして，自分自身の言葉の世界を広げ，自らの学びを探究していくことができるようにするための効果的な指導法を開発していくことを目的としている。この研究の方向は，新学習指導要領に示されている，実生活で生きて働く国語の能力を調和的に育てることをめざし，児童主体の言語活動を活発にしていく中で国語科の目標を確実かつ豊かに実現できるようにするという目的と方向性を同じくするものである。他者とのかかわり合いをとおして，自分の思いを表現し，実際の言語活動を積み重ねることによって得られる知識や経験をもとにした的確な判断を行う学習を行っていくことで，今後，子どもたちがさまざまな社会や実生活の場面で活躍していくための力を育んでいくことになると考える。さらに，学びを生活場面に適応させていくことで他者とのよりよい関係を築いていくことにつながるであろう。

（２）研究の方法

本研究では小学２年生と小学３年生を取りあげ，「言葉の世界をひらく」学習を行うために，以下の５点からなる学習のプロセスに留意して単元構成を行った。

・さまざまな他者と出会い，問いを立てる
・個の考えを深め吟味する
・他者とともによりよい方法で問題解決に取り組む
・学びの成果を適切に表現する
・学びを振り返り新たな学びにつなげる

（３）検証の方法

検証の材料として，子どもの学習記録や作品，授業記録などをもとにして考察を行う。

３．実践１―２年「ことばを作る」（しゃしんから話を作ろう）―

学校図書２年下

（１）授業の構想

①単元について

私たちの生活の周りにあふれる情報は，さまざまなメディアを介して提供される。実際には，情報の受け手による解釈や理解の仕方が異なっている場合もあるし，発信された情報が発信者の側によって意図的に加工されている事実もある。写真というメディアは一瞬の事実を切り取ったものであるが，受け手の多様な受け取り方が想定されるものである。本単元では写真の

Takaharu Yamamoto, Isamu Sasaki, Hiroyuki Tanaka, Chigusa Sugikawa, Hideo Kato, Satoshi Yazawa, Fumi Jitsutani: Practical Approaches based-on New Course of Study for Japanese Language Education by MEXT: Japanese language learning for developing students' world of language through collaborative leaning.

メディアとしての特性を生かし，写真から読み取ることのできる情報をもとに想像をふくらませ，その内容を物語として表現していくことをねらいとする。

指導にあたっては，導入の段階で，１枚の写真やイラストの内容について話し合い，読み取った内容の交流や台詞を考える活動を行うことで，解釈に自由度があることを確認しながら学習を進めるようにした。新聞の写真を教材として用いる活動を取り入れ，写真と文章の両方がそろってこそ伝えたい内容がはっきりすることを確認した。また，創作の活動に関しては，手順を明確にしながら学習を進め，多様な解釈のおもしろさを共有しながら，意欲的に表現活動に取り組むことができるようにした。

②目標

○写真や絵から，自分の感じたことや読み取った内容をもとにした話を作り友だちに伝えようとする意欲をもつことができるようにする。

○自分の考えを，聞き手にわかるように組み立てを考えて話すことができるようにする。

○写真や絵を見て，自分が感じたことや読み取ったことをもとにイメージをふくらませ，話を考えて書くことができるようにする。

○写真や絵に表された内容を読み取るとともに，友だちの作品にこめられた意図をつかむことができるようにする。

③学習計画（全15時間）

第１次　写真や絵からイメージをふくらませよう……２時間

第２次　写真や絵からお話を作ろう……７時間

・写真や絵の内容を読み取ろう……（３時間）

・写真や絵をならべてお話を作ろう……（４時間）

第３次　写真に合わせてお話を作ろう……６時間

（２）授業の実際

〈第１次　写真や絵からイメージをふくらませよう〉

本単元の学習を始めるにあたって，まず，教科書に示された写真から読み取ることができる内容について話し合った。複数の人物が出ている写真では，どの人物を中心にするかでとらえ方が変わってくることや，周りの情景からも情報が得られることなどを確認した。また，新聞に掲載された写真を使って，タイトルや文章と合わせて写真を見ることで情報を受ける側のイメージが絞られていくことなども学習した。

〈第２次　写真からお話を作ろう〉

○写真や絵の内容を読み取ろう

字のない絵本（「THE RED BOOK」Barbara Lehman著　Houghton Mifflin社）より３枚のイラストを題材として選び，それぞれについてどんな場面なのか，どんなことを言っているか（思っているか）ということをワークシートにまとめていった。イラストを選ぶ際には，順序性を感じ取りにくいものを選び，それぞれのイラストについて自由に発想ができるように留意した。

図１　選んだ３枚のイラスト

○写真や絵をならべてお話を作ろう

ここでは，前時までに使用した３枚のイラストを並べ替えて，一つのお話を作る活動を行った。まず，イラストの順序を入れ替えることで創作されるお話のストーリーが変わってくることを確認し，３枚のイラストの順序を自由に並べ替えて自分だけのオリジナルストーリーを作る活動に取り組んだ。３枚のイラストの順序を決め，それに応じたあらすじを考えていった。

「子どもたちの感想」

・わたしとおんなじならびでもちがうことを書いている人がいました。

・しゃしんのじゅん番が同じ人もいたけど，話がちがっていて，自分が思ったじゅんばんでならべてもいい考えが出ると思いました。

・３まいの絵だけでいろいろなばめんができてすごいと思いました。みんながんばって考えていました。

・今までにやったことがつながってお話ができて，すごかった。

・ほんものの話をつくるのははじめてだったけどできてよかったです。

・今までに思いうかばなかったことが書けてよかった。

・みんなのじゅんばんやお話がにているのもあったし，ぜんぜんちがうのがわかっておもしろかったです。もっとみんなのお話を知りたいです。

・わたしは，おこられているかんじの文を書きました。ないている子に風船をあげているやさしい子かなと思いました。

・いつもみんなが見ている絵だけど，こうしてみるといろんな見え方があるんだなと思ったよ。

子どもたちは，わずか３枚のイラストからつくり出したお話の多様性に驚き，また，友だちの考えのおもしろさを感じ取っていた。また，自分が一連のストーリーを考え，友だちに伝えられたことに達成感を感じ

ている様子もうかがうことができた。

その後，あらすじをもとに，登場人物の設定や名前，場面の様子などを改めて確認し，お話を書き上げる作業に取り組んだ。

〈第３次　写真に合わせてお話を作ろう〉

今までに学習した経験をもとにして，１枚の写真から自分のお話を考えて作る活動を行った。写真を選ぶ際には，登場人物（動物やものを擬人化しても可）がいることや，周りの情景もある程度写っている方がイメージをふくらませやすいことなどをアドバイスした。ただし，自分で想像したことを文章で補うこともできるということもつけ加えた。

お話を作る際には，改めて，登場人物をはっきりさせ，主人公（話を語る主体）を決めてからストーリーを考えることや，文章のはじめに場面設定を説明するような内容を入れて書くようにアドバイスをしてから下書きに取り組ませるようにした。その後，出来上がった文章を清書し，お話に応じたタイトルをつけ，お互いに自分の作ったお話を交流させるようにした。

「お話の交流の感想」

「おばけのタオル」について

・すごいアイデアだね。こんな国ほんとうにあるのかな？　あったらいきたいな。

○○さんのお話はおばけが出てくるからこわいのかと思ったけど，読んでみたらおもしろかったよ。

「ふしぎなミミズク　チックとタック」について

・ミミズクがしゃべるところがおもしろかったよ。

・ミミズクなのに，こわくて家に帰るというところがおもしろいね。

「たんていミステリー」について

・おもしろいしゃしんだね。しつもんだけど，その男はどこにいたんでしょうか？

・「あやしいところはないか？」と言い合うところがおもしろいね。

「木に心はあるのかな？」について

・だい名がいいなと思いました。

・すごくふしぎな話でおもしろかったです。男の子と女の子はやさしい心をもっていると思いました。

子どもたちは，楽しみながらお互いのお話を読み合い，感想を書いていた。考えたお話には個人の興味や関心が反映されており，友だちのアイデアのおもしろさを感じ取っている記述が見られた。

（３）学習を振り返って

今回の単元では，子どもたちの発想を言葉として表現したものを，身近な他者に伝える経験を積ませる学習活動を構成した。その中で子どもたちが自分の思いを作品としてつくりあげ，それを自分の表現として発信すること，そして，それを他者に受けとめてもらうことで得られる達成感という面では一定の成果が感じられる実践となった。実際に書く活動を伴う学習では「何を書いたらいいのか分からない。」と言うつぶやきとともに鉛筆が止まってしまう子どもも見られる中で，今回の実践では，こうした反応がほとんど見られなかった。子どもたちの意欲を喚起し，学習に見通しをもたせることで，子どもたちは発想豊かにお話作りに取り組んでいた。しかし，物語の創作という側面では，場面設定を正確に伝える技術や読み手を意識したクライマックス場面の設定，登場人物のキャラクターを明確化するといった点での課題も感じられるものであった。本実践を踏まえ，個々の学習の意図を明確化し，学習者にとって必要感のある活動を設定して行くことの大切さを感じている。より適切な学習活動を設定・配列しながら有効な単元を設定していきたい。

４．実践２―３年「くらしを見つめて」

（「年の始まり」宮本　袈裟雄）―学校図書３年下

（１）授業の構想

①単元について

本単元は，「年の始まり」についての説明文を読む学習と自分の地域の年の始まりの行事について調べて発表する学習で構成した。説明文教材は，全体が六つのまとまりに分けられ，「年の始まり」の三つの考え方を提示したうえで，子どもが活躍する各地の年の始まりの行事が具体的に説明されている。この学習を通して子どもたちは，今まで何気なく経験してきている年の始まりの意味を考えたり，いろいろな行事に込められた人々のさまざまな願いに改めて思いを馳せたりすることができる。ここでは，筆者がどんなことをどのように述べているかを読み取らせると共に，調べ学習を通して，自分たちの地域の新年を迎える行事に込められた人々の思いや願いに気付かせるようにした。

指導にあたっては，まず，自分たちの地域の年の始まりの行事に興味をもたせることによって，課題意識をもって説明文の内容を読み取らせるようにした。段落ごとの読みでは，それぞれの行事が「いつ・どこで・何を・だれが・どのように」するのか，「何のために」行われているのかなどを確認するとともに，全体の段落構成をとらえさせた。さらに，筆者が読者にどんなことを伝えるためにどのような内容を書いているのかを，自分たちの地域や他の地域の年の始まりの行事と比べさせることによって，筆者の意図や論理構成の工夫に気付かせるようにした。また，調べ学習では，地域の行事の意味を改めて考えさせ，行事に込め

られた人々の思いや願いを感じ取らせるようにした。

②目標

○自分の予想を筆者の考えと比べたり友だちと交流したりすることによって，読みの課題意識をもち，新年を迎える行事に込められた人々の思いや願いに気付くことができるようにする。

○段落のまとまりをとらえ，中心となる語や文をおさえながら，内容や表現の工夫を読み取ると共に，筆者の表現方法の工夫を生かすことができるようにする。

○調べた事柄について，メモをもとに筋道を立てて報告したり，発表の中心を考えながら聞いたりすることができるようにする。

③学習計画（全16時間）

第１次　年の始まりの行事を見つけよう……１時間
第２次　「年の始まり」を読もう……９時間
第３次　クラスのみんなに紹介しよう……６時間

（２）授業の実際（Ａ児の記録を中心に）

〈第１次　年の始まりの行事を見つけよう〉

説明文を読むにあたり，正月とはいつのことなのかを考えさせた。また，新しい年を迎えるために，あるいは正月に家や地域でどんなことをするかを出し合わせ，その中の一つを選んで説明する文章を書かせた。

> ししまいというのは，お寺に町の人が集まって宮司さんを待ちます。ししをかぶった宮司さんが出てきて，たたみの上を走ります。ししに頭をかまれたい子どもは，宮司さんに向かって「かんでー，かんでー。」と言って，頭をかんでもらいます。かまれた人は，一年が幸せにすごせると言われています。

〈第２次　「年の始まり」を読もう〉

自分たちの書いた説明文と比べながら「年の始まり」を読み，初めて知ったこと，自分の家や地域の行事や祭りと比べて考えたことなど，感想を書かせた。

> わたしは，「年の始まり」を読んで，知らなかったことがたくさんわかったことに変わりました。（中略）ほとんどの年の始まりの行事は，子どもが主役なのがいいなと思います。理由は，ししまいは大人が主役だからです。年の始まりの行事はたくさんあるから，それだけ大事なんだなと感じました。もっと年の始まりのことを知りたくなりました。

また，疑問に思ったことや知りたいこと，もっと読み深めたいことやみんなで考えたいことなど，学習課題を作り，単元の大まかな学習計画を立てた。

一段落では「なぜ正月には一年の始まりをいわう行事をするのだろう。」という学習課題をもとに，年の始まりについてのいろいろな考え方を読み取らせた。

> わたしは一段落を，みんなと読み取ってさらに深く考えることで，初めて「年の始まり」を読んだときよりもたくさんのことを学びました。一番おどろいたことは，正月の本当の名が「大正月」だったということです。なぜ「大正月」が「正月」になったのか，これは私の考えですが，さい近は昔のように小正月などがないので，ちぢめて「正月」になったのだと思います。

二段落では「わか水はどんな行事か読み取ろう。」という学習課題で，若水汲みについて読み取らせた。

> わたしは今日，自分の考えがたくさん発表できたのでよかったです。考えていたけど言えなかった大発見があります。子どもたちは神様で，神様がくれた水にはとくべつな力がこもっているので，お礼に「ありがとう。」という気持ちでほとけ様や神様にそなえるんだと思います。だから，わか水にはとくべつな力があって，命や心を変えるんだと思います。

三段落では「火祭りはどんな行事か読み取ろう。」という学習課題で，火祭りについて読み取らせた。

> わたしはきのうよりもすごい発見ができました。（なぜ火祭りの名前がちがうのかわかったぞ！）「さいの神」というのは，もう一度神様とさい会したいというねがいからつくられたのだと思います。

四段落では「小正月に子どもたちが家々を回って歩く行事について読み取ろう。」という学習課題で，成る木責め，鳥追い，もぐら打ちについて読み取らせた。

> 今日は小正月に子どもたちが家々を回る行事を読み取りました。「なる木ぜめ」がさるかにかっせんとにた行事だったとわかったのでうれしかったです。人間のねがいでたくさんの行事ができたんだと思いました。

五段落では「節分に行う行事について読み取ろう。」という学習課題で，豆まきについて読み取らせた。

> わたしは年神様とわか水くみ，なる木ぜめ，豆まきを全てつなげて考えてみました。そうしたら，年神様はとてもすごいことがわかりました。（中略）このように，年神様はいろいろな行事とかかわっていることがわかります。だから，いつも天から見守ってくれているし，正月の時などは身近な物になって悪をはらってくれます。この年神様が出てくる行事をしょうかいしてくれる筆者さん，ありがとう。

また，これまでに学習した二～五段落の行事の内容や願いを表にまとめて整理した。

六段落では「筆者はどんなことを伝えたかったのだろう。」という学習課題で，筆者の伝えたいことを読み取らせ，筆者の意図や段落構成の工夫に気付かせた。

今日，筆者の工夫がたくさん見つかりました。一番すごかったのは，わざと問題を書いていなかったことです。感心してしまいました。説明文を書くことは宮本袈裟雄さんのとくぎなんだ。だから，こんなに上手に書けるんだと思います。

最後に「筆者の工夫をいっぱい見つけよう。」という学習課題をもとに，これまでの学習を振り返らせ，自分の説明文に生かしたいことをまとめさせた。

わたしのせつ明文に一番生かしたいことは，コンセントをつなぐように，今までのことをつなげて書くことです。「年の始まり」を勉強してわかったことは，「ミラクル　ミルク」いがいの書き方があるということです。筆者さんには，たくさんのわざがあるんだと思いました。

〈第３次　クラスのみんなに紹介しよう〉

年末年始にかけて，年の始まりの行事について調べたり新聞記事を集めたりする学習を設定した。その中から自分が紹介したい年の始まりの行事を選ばせ，これまでの学習を生かした説明文作りに，冬休み明けから取り組ませたいと考えている。

（３）学習を振り返って

今回の単元は，説明文を読む学習と，自分の地域の年の始まりの行事について調べて発表する学習で構成した。そのため子どもたちは，説明文の内容を地域の行事と比べながら読んだり，今まで何気なく経験してきている行事の意味を改めて見つめ直したりすることができた。また，筆者の意図や論理構成の工夫については，既習の説明文の論理構成と比較することによって，筆者の意図に気付かせることができた。さらに，単元の初めの段階で，説明文の読み取りの後に地域の行事についての説明文を書くという学習計画を立てていたので，筆者の意図や論理構成の工夫についても，課題意識をもって学習を進めさせることができた。今後は，子どもたちが書いた説明文にこれまでの学習内容がどのように生かされているのか，地域の行事の意味をどのようにとらえているのかなどについて検証していきたいと考えている。

５．考　　察

先に挙げた５点からなる学習のプロセスについて考察する。

（１）さまざまな他者と出会い，問いを立てる

子どもたちは，社会や学習の中でさまざまな他者の言葉に出会う。子どもたちが言葉の世界をひらくためには，言葉への興味・関心を引き出し，課題意識や目的意識をもつことが大切である。

２年生では，写真から読み取ることのできる情報をもとに想像をふくらませ，その内容を物語として表現させた。子どもたちは，写真にこめられたメッセージを一つの他者の言葉として受けとめ，それをきっかけにして創作に取り組むことができた。また今回の実践では，子どもたちの意欲を喚起し学習に見通しをもたせることで，子どもたちは発想豊かにお話作りに取り組んだ。３年生では，説明文を読む学習と，自分の地域の年の始まりの行事について調べて発表する学習で構成した。子どもたちは，既習の説明文の論理構成と比較することによって，筆者の意図に気付くことができた。さらに，単元の初めに立てた学習計画に基づき，課題意識をもって学習を進めることができた。

このように，言葉にこだわりながら吟味を重ねることが，思考を広げたり深めたりし，言葉を豊かにすることにつながったと考える。

（２）個の考えを深め吟味しながら，他者とともによりよい方法で問題解決に取り組む

問題を創造的に解決していくためには，一人ひとりが自分の考えをもち，一人ひとりの考えを他者との交流の中で練り合い，拡散的思考・収束的思考を繰り返しながら，問題解決を図っていくことが大切である。

２年生では，写真や絵をもとに，自分の思いを作品としてつくりあげた。それを自分の表現として発信し，他者に受けとめてもらうという活動を繰り返し行った。その結果，自分の表現に自信をもったり，他者の表現のよさを見つけたりなど，一定の成果を得ることができた。３年生では，一つひとつの言葉から感じたことや率直な疑問などを書き込み，それらを交流することによって学習課題を解決していくようにした。

このように，お互いの考えの交流によって，個の考えを広げ深め，問いに照らし合わせて吟味しながら，自分たちなりの結論を創り出していくことができた。

（３）学びの成果を適切に表現し，学びを振り返り新たな学びにつなげる

表現することは，自分の考えを他者に伝えるとともに，自分自身に問い直して自己の考えを確かなものにし，学習を深めることにもつながるものである。

２年生では，子どもたちの発想を言葉として表現したものを，身近な他者に伝える経験を積ませる学習活動を構成した。創作の途中段階で他者に対して表現し合うことは，お互いの考えを広げたり意欲を喚起したりするためには，大変効果的であった。しかし，物語の創作という側面では，いくつかの課題も感じられた。個々の学習の意図を明確化し，学習者にとって必要感のある活動となるよう，有効な単元を設定していきたいと考えている。３年生では，子どもたちが書いた説明文にこれまでの学習内容がどのように生かされてい

るのか，地域の行事の意味をどのようにとらえているのかなどについて検証が必要である。単元の学習の中で獲得した学習内容や学習方法の成果を確かめさせることによって，子どもたち自身の新たな学習への問いにつなげるようにしていきたい。

新学習指導要領では，言語活動例が具体的に記されている。いずれの文種にしても，題材を的確に捉え分析し，適切な表現技術を用いて表現すべき文章であり，調和的な国語の能力が求められることは言うまでもない。現実社会と自らとをつなぐ学習を重ね，生きて働く国語の力を育てることは，言葉の世界をひらくことにつながっていく。言葉の世界をひらき，学びを自ら探求する学習のあり方を今後も探っていきたい。

６．おわりに

本研究は，低学年から中学年における読むことの学習指導のなかで，「自分自身の言葉の世界を広げ，自らの学びを探究していくことができるようにするための効果的な指導法」の開発をめざすものであった。

単元「ことばを作る」（２年）の「目標」は，新学習指導要領小学校国語科１・２年の「書くこと」におけるいくつかの指導事項にかかわっている。「ア　経験したことや想像したことなどから書くことを決め，書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」「イ　自分の考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」「ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら，つながりのある文や文章を書くこと。」である。「目標」には明瞭に示されてはいないが，実際の指導では「オ　書いたものを読み合い，よいところを見付けて感想を伝え合うこと。」も果たされている。写真や絵を用いて学習者のイメージをふくらませ，それを創作文に結びつけていこうとした。バーバラ・レーマン『レッド・ブック』（新評論，2008）から三枚の絵を選んで，それをもとに並べ替えをしながら，文章の構成を捉えさせようとする試みである。

単元「くらしを見つめて」（３年）の「目標」も，新学習指導要領小学校国語科３・４年の「読むこと」のいくつかの指導事項とかかわっている。「イ　目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。」「エ　目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。」「オ　文章を読んで考えたことを発表し合い，一人ひとりの感じ方について違いのあることに気付くこと。」などである。説明的文章を読みながら，筆者の工夫や意図を把握させようとしているところに大きな特徴がある。

「書くこと」の学習指導にしても，「読むこと」の学習指導にしても，さまざまな「他者」と出会い，一人ひとりの学習者が自身の考えを深め，それを吟味しながら，教師や友だちとともに，学びのすじみちを振り返りながら進んでいくことは，リテラシーを身につける上で重要な営みである。２年生で取り組んだ，絵本の絵を用いた物語作りを通して生まれた「子どもたちの感想」や「お話の交流の感想」に見られるのは，同じ３枚の絵を見ながら各自が作った「お話」の読み合いが，各自の想像力を刺激し，一人ひとりの「自分の言葉」をひらいていった模様であった。３年生で取り組んだ説明的文章の学習では，先行する「ミラクルミルク」の学習で学んだ筆者との対話する姿勢が，より明瞭なかたちであらわれた。そこに見られたのは，筆者が文章に提示した価値づけ（評価）の仕組みを，子どもたちの言葉で捉え，表現し，それを教師や友人とともに確かめていくすじみちであった。その過程で，文章に能動的に取り組み，解釈や評価を「自分の言葉」であらわす読みが可能になったと思われる。

今回の研究は，「書くこと」や「読むこと」の学習指導のなかで，学習者の思考力・判断力・表現力を育てるために，探究の起点となる教材を開発し，教材に向かう学習者の能動的な姿勢を引き出す働きかけを工夫した。いずれも，授業において，一人ひとりの学習者の学ぶ力を育てていくために，どのような条件や働きかけが必要なのかということを吟味・検討するものであったと言うことができる。

平成23年４月からの新学習指導要領の実施に伴って，「言語活動の充実」が国語科ばかりでなくカリキュラム全体の重要な課題となる。何のための「充実」か。それは学習者の言葉の力を育てるため，である。この課題に取り組むためには，「言語活動」を通してどのように学習者の「言葉」をひらいていくのか，そして，さまざまな「他者」とのかかわりを通じてどのような力を学習者のものにしていくのか，という問題に取り組む指導法を築いていく必要がある。本研究は，ささやかなものではあるが，そのための足場を築いていこうとするものである。

２年生及び３年生で取り組んだこのような試みを受け，１年生での，また，４年生以上の学習指導のかたちがどのようなものになるのかということを探り，学習指導の系統をさらに確かなものにしていくことを，今後の課題としたい。